

# 三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2011. 1.24

No.1981  
No.23



出席率	会員50名中34名
先々週の出席率	85.11%
先週の メイクアップ	1/19 R財団ミーティング(上越)へ 野崎正明君
	1/20 三条RAC 「長久の家」餅つき交流会へ 永桶俊一君

## 地域を育み 大いにつなぐ



### 会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長  
大溪 秀夫

皆さん、こんにちは。1月は、「ロータリー理解推進月間」であります。この月間はクラブだけでなく、ロータリアン一人一人がロータリーの活動に参加することを強調するために、RI理事会が指定した月間です。後程、吉井委員長よりお話がありますのでよろしくお願い致します。

さて、本日は「生命」について話をしてみたいと思います。

生命とは何かを説明するためには、「生命」と「生命でないもの」の間に境界線を引く必要があります。しかし、「生命」と「非生命」区別は難しく、研究者ごとに「生命」の定義は異なっています。

代表的な「生命」の定義は、

- ① 外界と区切られている
- ② 自分と同じ姿をした子孫をつくることのできる(この機能を「自己複製」と呼ぶ)
- ③ 食事や光合成などで、材料とエネルギーを調達し、自分自身を維持することができる(この機能を「代謝」と呼ぶ)

遺伝物質(DNA【デオキシリボ核酸】やRNA【リボ核酸】)には、その生命をつくるための「遺伝情報」が含まれ、「遺伝情報」は次の世代へと伝えられます。極言するならば、「生命とは、世代を超えて伝達される遺伝情報、そのものである」と言えます、あるいは、「生命とは、遺伝情報が生物の体を通じて伝わっていくための“システム”である」と言うこともできます。

もう一度言いますと、生命の2大機能は「自己複製」と「代謝」であります。

#### 1)「自己複製」とは?

生命は自分自身と同じ姿のものを作り出すことで、種を維持します。この機能を「自己複製」と呼びます。生物の基本単位である細胞も「自己複製」を行います。

### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス [アメリカ]  
第2560地区ガバナー 東山 昶也 [高田]  
第4分区AG 蕪澤 喜一郎 [三条南]  
会長 大溪 秀夫  
幹事 野崎 正明  
S A A 平松 修之

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

## 2) 「代謝」とは？

生命が自分自身を維持するために行う化学反応であり、エネルギーを引き出す“異化”と、体の部分を作り出す“同化”があります。

\*異化：細胞は、食物である糖を取り込み、それを分解して二酸化炭素と水にします。その過程で様々な生命活動に必要なエネルギーを得ます。このように複雑な有機物を、より単純な化合物へと分解していく過程からエネルギーを引き出す反応を、生物学では“異化”と呼びます。呼吸などは“異化”です。

\*同化：細胞は“異化”によって得たエネルギーなどを使って、外から得たアミノ酸をつなげてタンパク質をつくり出します。このように、エネルギーを消費してより単純な化合物から、自身の体を構成する部品を作り出す反応を、生物学では“同化”と呼びます。光合成や成長は“同化”です。

代謝には必ずエネルギーの出入りが伴います。“異化”とはエネルギーが得られ、“同化”にはエネルギーが必要です。

地球ができてから約46億年経ちますが、現在のDNAワールドが今から約38億年前に誕生したことは、オーストラリアで発見された「単細胞生物」の化石から確認されています。

そして、最初の「多細胞生物」が誕生したのは、今から10億年前とのことです。そして約5億年前の「カンブリア紀」に多種多様の形をした生物が一挙に出現したと言われていています。この‘カンブリア爆発’から生命の多様化が加速され、現在、数千万種とも言われる生物が地球上に生息するようになりました。それらの生物の類縁関係をDNAの塩基配列から決めたのが、「系統樹」と呼ばれるものです。

なお、ウィルスは複製によって子孫を残しますが、代謝は行わないことから、生物学ではウィルスを生物とみなさないことが多いようです。

本日は、以上で挨拶を終わります。

## お元気で！

三野輪 明人 会員

このたび、2月1日付で埼玉県熊谷支店に転勤となり、本日が最後の例会出席となりました。

2008年12月に入会、2年2ヶ月の短い間でしたが、大変楽しく過ごすことができましたこと心より感謝申し上げます。次々年度にはSAAを務めさせていただくことになっておりましたが、残念です。

こちらでは支店内の社員とお客様という限られた世界の中で、ロータリーに仲間入りをさせていただき、お酒やゴルフ等々、頼りになる、楽しくお付き合いのできる仲間が出来ましたこと、大変貴重な三条での生活でした。週1回月曜日の例会が楽しみになっていたところでした。

熊谷でも、前任に続き、熊谷ロータリークラブに入会の予定です。今後ともロータリアンとしてご指導をよろしくお願い致します。

東京への途中、熊谷にもどうぞお立ち寄り下さい。その時にはロータリーソングのように「やあー！」とお声をかけて下さい。お世話になりました。ありがとうございました。



益々のご活躍をお祈りいたします

## 幹事報告

野崎 正明 幹事

### 東山ガバナー事務所より

#### ① 2013～2014 年度ガバナー・ノミネー候補者推薦について

推薦提出期限 2011年 3月10日(木)  
提出先 東山ガバナー事務所内地区指名委員会

#### ② 「第2回 ロータリー財団セミナー」開催のご案内

日時 2011年 2月19日(土) 11:45～16:30  
会場 デュオ・セレッソ上越  
出席義務者 次年度ロータリー財団委員長 または、次年度会長、幹事  
※熊倉高志次年度幹事出席予定

#### 頸北ロータリークラブより「創立30周年記念式典」開催のご案内

日時 2011年 4月24日(日) 13:30～18:00  
会場 ホテルセンチュリーイカヤ(上越市)  
記念講演 上田情報ビジネス専門学校 比田井和孝氏  
「幸せな人生を歩むためにとっても大切なこと」



坂井 範夫 2011～12 年度会長エレクト

2012～13 年度SAA（次年度副SAA）変更について

三野輪さんのご栄転による退会により、2012～13 年度のSAAは永桶俊一さんをお願い致しました。それ変更に伴い、永桶俊一さんには次年度（鈴木囃彦会長年度）は副SAAと新世代奉仕委員長をご担当いただきます。宜しくご了承の上、ご協力をお願い致します。

# ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 1月24日 15,000円  
今年度累計 436,000円

- |   |  |
|---|--|
| <p><b>大 溪 君</b> 寒くなり、感冒の季節となって、インフルエンザも出始めています。ご自愛下さい。</p> <p><b>野 崎 君</b> 吉井さん、本日の卓話、よろしく願い致します。BOXに協力致します。</p> <p><b>三野輪君</b> 三条南クラブで2年2ヶ月大変お世話になりました。2月1日付で熊谷に転勤になってしまいました。全然お役に立てませんでしたが、大変有意義で楽しい2年2ヶ月でした。本当に有難うございました。</p> <p><b>吉 井 君</b> 卓話担当です。私にしては少し硬い話をします。ゆっくりお休みください。詳細は、次回週報をご覧いただければOKですので・・・！！</p> | <p><b>坂 井 君</b> 長男に子が生まれました。子どもの中では一番遅かったのですが心配してましたが、神が子を授けて下さいました。</p> <p><b>田 中 君</b> 雪の中で、車が動かなくなりました。皆様に助けられました。感謝、感謝です。</p> <p><b>渡 邊(久)君</b> インフルエンザが流行しています。ご用心下さい。</p> <p><b>鈴木(囃)君、西巻君、野中君</b> 吉井さん、本日の卓話ご苦労様です。</p> <p><b>銅 冶 君</b> BOXに協力致します。</p> |
|---|--|

Speech

ロータリー理解推進月間



卓 話

『目からウロコ』の小冊子編集

～「ロータリー理解推進月間」に寄せて～

会員選考・ロータリー情報委員長  
吉井 正孝 会員



私が南ロータリーに入会させて頂いたのが1990年5月。45歳の時だったと思います。以来、既に20年が経過しました。この20年余、40歳まで入会していたJ.Cとは異なるさまざまな経験をさせて頂きました。会員の仕事が様々なことはJ.Cも一緒でしたが、「年齢幅」の広さが他では経験できない魅力と思い、門を叩いた私でした。毎月曜のお昼、ゆっくりボォ～っと過ごせた20年間だったように思います。

そんな昨年……。結構忙しかった会長職を終え、今年はロータリー情報委員会「少しゆっくりと……」と、埋没を決めていた折、第4分区分区I.Mの開催に伴い、当クラブ新入会員研修のバイブルとも言うべき小冊子「Rotary mini Digest」の2560地区会員2,000名への配布が、

あれよあれよ～と言う間に決まってしまう、その編集を任せられました。

本棚の隅で、ホコリを被っていた以前の冊子を探し出し巻末を見ると2005年の改正……。5年毎に内容を見直してきた南クラブの生真面目な経緯が伺えました。このルールで行けば、昨年は「見直しの年」を迎えていました。ただ、地区内の「全会員配布」には、編集する側にとっては大きなプレッシャーとなりました。

急きょ情報委員会の佐藤嘉男さん、事務局の長橋さん、西巻印刷さんと打合せを開始。前号までの内容確認と5年間での改正項目のチェック。「省く」内容と「加える」項目の判断。必要な資料収集と内容の検討。極力ページ増を抑えたレイアウト。そして少ないスタッフでの「役割分担」と、問題は山積でした。ただ、最終期限だけは「8月末」と決まっていました。

気が遠くなるようなロータリー関連図書に囲まれて、毎日はこれらの読みあさりに没頭しましたが、ハッキリ言って、決して面白い内容ではありませんでした。

しかしその中に、初めて知った含蓄ある「ロータリーの話」が沢山ありました。

諸先輩方には勿論、すでにご存知の内容かも知れませんが、今日はそんな話の中から

- 「四つのテスト」の由来
- 「決議 23—34」の話

を中心に、話を進めさせていただきます。

## ●「四つのテスト」の由来

言行はこれに照らしてから  
真実かどうか  
みんなに公平か  
好意と友情を深めるか  
みんなのためになるかどうか

毎週の例会場に掲示され、「ロータリーソング」として全世界のクラブで唱和されるお馴染み「四つのテスト」には、こんな『由来』がありました。

### 四つのテスト その由来をひもとく

ダレル・トンプソン（カルフォルニア州モローベイRC）

今から60年以上も前の大恐慌のさなか、一人のロータリアンが4項目からなる簡明な倫理指針を考案しました。この指針は、窮地にあった彼の会社を救うのに役立ったのです。この指針が表現していた内容や信条はまた、ほかの多くの人たちに対しても、倫理的羅針盤を提供することになりました。やがて、国際ロータリー（RI）によって採用され、広く知れ渡ることになったこの四つのテストは、今日では、ロータリーの基本理念の一つとなっています。今世紀における最もすばらしい声明の一つと言ってもよいでしょう。

#### 創案は七つのテスト

この四つのテストの創案者であるハーバートJ. テラー（ハーブ）はやり手で卓越したセールスマンであり、人の上に立つ人物でした。ハーブは行動家で、信仰心が厚く、道義を重んじる人物でした。1893年にアメリカ・ミシガン州に生まれたハーブは、イリノイ州エバンストンのノースウエスタン大学を苦学の末、卒業しました。卒業後、彼は、YMCAおよび英国陸軍福祉機関の任務で渡仏し、第1次世界大戦ではアメリカ海軍の補給部隊員として従軍しました。1919年にグロリア・フォブリックさんと結婚して、アメリカ・オクラホマ州に新居を構えたハーブは、同地でシンクレア石油会社に勤務しました。彼は1年後に同社を退社し、保険・不動産・石油リース仲介業を始めました。

数年に及ぶこの事業でいささかの成功を収めたハーブは、1925年にイリノイ州に戻り、シカゴのジュエル・ティー社に入社、とんとん拍子に昇進しました。やがてシカゴロータリークラブの会員となりました。1932年、ジュエル・ティー社の次期社長候補であったハーブは、倒産寸前状態にあったシカゴのクラブ・アルミニウム社の再建を依頼されました。調理器具メーカーの同社は、総資産額を40万ドル上回る負債を抱え、倒産の瀬戸際にありましたが、ハーブはこの難業を引き受け、危機に瀕した同社に自らの運命を託し

たのです。彼はジュエル社を辞め、これまでの給与の8割減という収入でクラブ・アルミニウム社の社長に就任しました。そのうえ、運営資金に充てるため、自己資産6,100ドルを同社に投資したのです。

信仰心の厚いハーブは、同社を建て直し、大恐慌下の沈滞ムードを払拭するための手段として、社員たちに倫理的価値観の目安となる簡潔な指針を提供すべく、神の啓示を求めて祈りをささげました。

社の倫理訓について構想をめぐらせたハーブは最初、およそ100語からなる文章をしたためましたが、これは長すぎると判断しました。そこで推敲を重ね、それを7つの項目にまとめたのです。四つのテストは当初は、七つのテストだったのです。しかし、これでも長いと考えた彼は、それを自問形式の4項目にまとめ上げ、それが今日の四つのテストとなりました。

#### 広告に適用した四つのテスト

#### 難局に挑んだ四つのテスト

#### 今こそ必要なのは倫理的誠実さ

編集部から—

四つのテストは、100か国以上の言語に翻訳されています。

1954年に日本の大阪ロータリークラブは、四つのテストをバナーに印刷した最初のクラブとなりました。また、日本の別のクラブでは、にわか雨に降られてしまった通勤客たちに傘を貸し出すプロジェクトを開始しましたが、ある会員は、通勤客が借りた傘を返してくれるかどうか自信がありませんでした。そこで、別の会員が、傘の内側に四つのテストを印刷することを提案しました。数か月後、傘は多くの人たちに利用され、すべて返却されました。四つのテストは、人々の心の中に深く刻み込まれ、目に見える形で表現されています。

資料：「ロータリーの友」2010年10月号より

## ● ロータリーの奉仕理念「決議 23—34」の話

決議 23—34 は、「社会奉仕に関する 1923 年の声明」として『手続要覧』に掲載。1923 年に開催されたセントルイス国際大会に提出された第 34 号議案であったことから、通称「決議 23—34」と呼ばれています。

その原文には、「綱領に基づく諸活動に関する方針を再確認し、国際ロータリーと各ロータリークラブに於ける今後の活動の手引きとなる原則を定める件」と規定。全ての実践活動の指針であると同時に、この奉仕理念を「ロータリー哲学」として確定した崇高な内容を含んでいます。

第 1 条 には、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務、およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に、常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は『超我の奉仕』の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである」と、『ロータリーの奉仕理念』が説かれています。

第 2 条 には、ロータリークラブの役割について

- ① 奉仕の理論を団体で学ぶこと
- ② 奉仕の実践例を団体で示すこと
- ③ 奉仕活動の実践を個人で行うこと
- ④ ロータリーの奉仕理念と実践を、一般の人に受け入れてもらうこと

第 3 条 には、国際ロータリーの役割について

奉仕理念の育成と普及。クラブの拡大、援助、管理と情報伝達およびクラブ運営と社会奉仕活動の標準化。

第 4 条 には、ロータリー運動は、「単なる理念の提唱ではなく、実践哲学であって、奉仕するものは行動しなければならない」と規定。

第 5 条 には、クラブの自治権。クラブが地域社会に適した奉仕活動を選ぶ絶対的権限を持っている。但し、ロータリーの綱領に反したり、クラブの存続を危うくするような活動を禁止。

第 6 条 には、社会奉仕実践の指針として、他と重複する奉仕活動の禁止。大規模活動の制約。宣伝目的の活動の禁止等を盛り込み、「奉仕活動の原則は、あくまでも「個人の奉仕」であり、クラブが行う活動は、その「サンプル」に過ぎない。」と規定しております。

資料：わかりやすいロータリー（RI 第 2650 地区 マニュアル編集委員会 刊）

禅問答にも似て難解な「決議 23—34」を仔細に見たとき、1917 年 米国テキサスのロータリークラブ会員の一人が所属クラブを脱退して結成した社会奉仕団体「ライオンズ・クラブ」との考え方の違いを感じます。

## ROTARY NEWS



国際ロータリーニュース

2011 年 1 月 18 日

## 貫いた信念の力

1981 年、中国人バレエダンサーのリー・ツンシン氏が、米国での滞在継続を望んだことから、テキサス州ヒューストンの中国領事館に強制的に拘束されたというニュースは、たちまち世界を駆け巡りました。

リー氏は当初、北京ダンス・アカデミーの一員として、ヒューストン・バレエ・アカデミーとの 3 カ月の文化交流プログラムでヒューストンを訪れました。彼はその優れた才能を開花させ、滞在延長が認められ、その後もヒューストン・バレエの一員として活動し続けることを望んでいました。

リー氏の弁護士となったチャールズ・フォスター氏は、中国政府が、リー氏の意思に反し、米国から彼を強制送還させないよう働きかけました。21 時間の張り詰めた交渉の末、フォスター氏は、中国政府がそれ以上の措置を取ることを禁じた連邦裁判所命令を取り付けました。また同氏は、米国政府高官にも電話をし、リー氏の中国への強制送還には法的な問題を引き起こしかねないことを警告しました。同氏の粘り強い働きかけにより、最終的にリー氏は米国に滞在することを許され、ヒューストン・バレエのプリンシパルにまで登りつめたのです。

8月に、サミュエル・ゴールドウィン・フィルムおよびATOピクチャーズにより封切られた映画「[毛沢東のバレエダンサー](#)」の中でも、この中国領事館での緊迫したやりとりは重要なシーンとなっています。映画は、リー氏の自伝に基づき、ブルース・ベレスフォードが監督、リー氏役をチャー・カオ、フォスター氏役をカイル・マクラクランが演じています。



チャールズ・フォスター氏（右）と、映画「毛沢東のバレエダンサー」で、フォスター役を演じた俳優のカイル・マクラクラン。

現在、家族と共にオーストラリアに住むリー氏は、「チャールズの法律に関する知識、迅速な思考力、クライアントとしての私への献身がなければ、どのような結果になっていたことか分からない」と話します。一方、ヒューストン・ロータリー・クラブの会員であり、元ロータリー財団[国際親善奨学生](#)でもあるフォスター氏は、「リーは、自伝と映画が受けている評価と賛辞に相応しい、素晴らしい才能を持った勇気ある人物」とリー氏について語っています。

この出来事は、フォスター氏が創設した[フォスター・クワン](#)法律事務所が、ヒューストン・バレエやその他地元の芸術関連団体に対し、無料の移民法相談を始めるきっかけとなりました。「ヒューストン・バレエのような大規模な芸術団体が、世界中から優れた才能を合法的に集めるために、複雑な移民法の舵取りをしなければならないということは、あまり知られていません。移民法のプロセスは複雑で、多くの連邦政府が関わっているため、この分野で経験のある弁護士が必要となります」と話すフォスター氏は、米国移民法のエキスパートとして、ジョージ・W・ブッシュ前大統領やバラック・オバマ大統領の補佐官としても活躍しました。

同氏は、テキサス州のボルブスクリスティ・ロータリー・クラブの支援を受け、1964-65年度の国際親善奨学生として、チリのコンセプション大学で法律を学びました。

「ロータリー国際親善奨学生として培った経験のおかげで、国際弁護士として職を得ることができ、英語とスペイン語で法律の職務に携わることができるようになりました。チリでは、ほとんどすべてのロータリー・クラブを訪問しましたし、テキサスでも相当数のクラブで講演しました」と語る同氏は、自らの法律事務所を創設したのち、ロータリアンになりました。

「それまで長い間ロータリーに関わってきたことから、ロータリアンになることは私にとって自然な選択でした」

## 表紙について

岩橋 英遠 いわはし えい えん (北海道出身)

1903-1999

■「北の海(氷)」 1980(昭和55)年作

東京国立近代美術館

ロータリーの友 1994年1月号表紙より

三條南ロータリークラブ週報

2011. 1.24

No.1981 No.23